

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2694000056		
法人名	柊野福祉会		
事業所名	グループホーム上桂(桜)		
所在地	京都市西京区上桂北村町114番地		
自己評価作成日	令和2年2月20日	評価結果市町村受理日	令和2年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <https://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokekka.nsf/a0open?OpenAgent&JN0=2690100231&SVC=0001096&BJN=00&OC=01>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1 ひとまち交流館 京都1階
訪問調査日	令和2年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、入居者様が主役となって生活して頂けるよう心掛けています。また、食事は出来るだけ手作りし、毎日散歩や外出し、入居者様やご家族様の希望に沿って支援を行っている。また、ご家族が面会に来られた時には、状態報告をしっかりと行ったり、毎月ご家族宛てに手紙をお送りし、状況を共有するようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム上桂は、2011年4月に「高齢者総合施設上桂」の2階に開設されました。法人理念に基づき、今年度事業所目標を「入居者様の価値観や思いを尊重し、生活の主役となっていただく」と掲げています。職員は利用者の思いを尊重しつつ、普通の日常生活を職員とともに明るく過ごせるように心がけています。食事作りは利用者も一緒に献立を考えキッチンに立ち、味付けから片付けまでおこない、手づくりおやつも腕をふるっています。他のことにおいても、できることは一緒におこなっています。毎日のレクリエーションは、カラオケやボーリング、トランプや坊主めくりなど好みや興味のあるものを取りおこなっています。近隣の桂川小学校との交流では、4年生の来所が今年度は4回あり、生徒が考えてきた昔遊びを楽しみました。プレゼントの絵は、玄関ホールに展示してあります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の独自の理念を作成し、職員が常に確認出来る事務所やトイレに掲示している。	法人理念、事業所目標のもと、今年度チーム目標は「入居者様に安心出来る環境と満足して頂けるサービスを提供する」と掲げている。職員アンケートで目標をつのり、話しあって決めている。目標管理シートに、「チーム目標を達成するための私の役割」を書き、行動を示している。3か月ごとに管理者との面接で振り返りをおこない、介護支援計画作成時にも検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣にある桂川小学校と交流を行っている。散歩や外出すると声を掛けて下さる方がおり、入居者様も喜ばれている。	毎年主催する「上桂感謝祭」は、回覧板で地域に知らせ近隣の方の参加がある。介護相談や模擬店をだし、ボランティアによる歌や踊りでにぎわう。御霊神社の祭りでは、玄関前を休憩所に提供しており、利用者はまじかでみこしに接している。桂川小学校の夏祭り、運動会に利用者と参加している。小学4年生の福祉活動に参画し、「認知症の話」をしており、生徒の来所も年4回ある。利用者は、生徒が考えてきた昔遊びを一緒におこない交流している。プレゼントの絵は、玄関ホールに展示してある。ドッグセラピー、アロマセラピーは定期的にボランティアの来所がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、感謝祭を11月に開催しており、介護相談コーナーも設け、地域の方が悩み相談出来るよう取り組んでいる。また、事業所の事を理解して頂けるよう活動している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3事業所合同で、2か月に1回開催をしている。サービス内容や事故等の報告を行い、参加者からの意見も頂き、地域の方々と意見交換出来る貴重な場となっている。	会議では、利用者状況、事故、行事、研修などの報告がおこなわれる。職員異動の報告を今年度目標に上げ、正職とパート職員は報告している。派遣職員の異動は多く、検討事項のまま経過している。委員より、地域行事のお誘いがあり利用者と参加しているが、提案や検討事項は少ない。家族に会議への案内はしていないが、議事録は送付している。会議は併設の3事業所が合同で開催していたが、来期から単独での開催となる。	事業所が提供している多くのサービスに対し個々に検証していかれてはいかがか。見学や実践を通し多くの意見を得る会議になることを望む。家族にも案内を出し、参加者が増加することを期待する。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談事や事故報告等があれば直接出向き、報告や相談を行っている。	運営推進会議録を届けたり、事故報告など、担当者との連携や協力関係は図れている。西京区サービス事業者連絡会に出席し、情報交流をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止マニュアルをもとに研修を年2回行い、普段行っている支援の中で知らないうちに身体拘束をしていないか等を振り返り、ケアの改善に取り組んでいる。	法人で3か月ごとに「リスクマネジメント委員会」を開催し、身体拘束も検討している。上桂事業所からも職員が参加して、事前に話し合った事業所状況を報告している。「高齢者虐待防止、身体拘束適正化研修」を年2回おこない、事例検討などで知識を深めている。車椅子の方も食事時は椅子に移る、排泄は個別対応、入浴は同性介助など統一している。帰宅願望の見られた時は、傾聴や散歩、家人との電話など、個々に対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についてもマニュアル研修を行い、理解を深めると共に、常に入居者様の身体状態や変化を確認し、何かあればすぐに対応出来るよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所において、権利擁護や成年後見人制度について研修を行い、学ぶ機会を持っている。必要性を感じたり、ご家族から相談があれば場を設け、活用出来るよう支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、重要事項説明、入居契約書、入居の手引き等を渡し、説明を行っている。出来るだけ入居される前に事業所の事を理解して、納得した状態で入居して頂けるよう取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情受付ポスターを掲示し、何かあれば担当職員と話が出来るようにしている。また、普段から、面会に来られた時に、話を行っており、何か意見があれば、職員に伝達し、ご家族や職員の意見が反映するよう取り組んでいる。	玄関に苦情受付ポスターを貼り、意見箱を設置している。家族の来所時には、職員から声かけをおこなっている。家族は意見や要望を言うことが多いが苦情は少ない。しかし、洗面所の清掃依頼もある。家族からの依頼は、ケース記録や連絡ノートに書いて職員間で共有し検討している。顧客満足度調査は4月に予定している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を行い、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、月1回事業所長会議に管理者が参加し、運営や法人に関する内容の意見を交換する機会がある。	管理者は、職員会議や個人面接で職員から意見を聞く機会が多い。職員会議でケアカンファレンスもおこなっており、座席の相性に対しての話し合いは多くある。レクリエーション係からトランプやかかるたの更新、備品係からリビングの飾りつけ用品の購入依頼がある。職員間で共有しなければならない事柄は、全体連絡ノート(ユニット共有)や情報交換ノート(ユニットごと)に書き、統一を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の人事考課表により、事業所の目標に基づいて個人目標や評価を管理する事で、給与や賞与に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で課題別研修を行い、学ぶ機会を設けている。また、法人が開催している研修や外部研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内に3事業所グループホームがある為、年3回合同研修を行い、サービスの向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に、ご本人やご家族の希望を確認し、必要とされている支援を把握し、提供出来るよう心掛けている。また、日頃の関りから信頼関係が構築出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や入居相談時、契約時に意向や要望を確認し、安心して入居して頂けるよう取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	しっかりと聞き取りを行い、必要とされている支援が提供出来るように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で、日頃からコミュニケーションを図り、笑顔が絶えず楽しく生活して頂けるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた時は、必ず近況報告を行い、情報を共有している。また、月1回写真付きの手紙を送り、ご様子をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様によっては、知人や近所の方が訪ねて来られる事もあり、ご家族と訪問される事もある。また、1階のガーデンハウスを利用されていた入居者様はレクリエーションに参加されたり、事業所間でも交流を図っている。	毎月、娘さんが来所して外泊(2~3泊)する方、年2~3回も同窓会に出かける方、友人の訪問で継続して外食に行かれる方もある。職員も和食派や洋食派のグループに分かれて外食同行や、イオンモールへの買い物同行をしている。趣味の散歩や編み物、花を育てるなどは介護計画に組み込み支援している。玄関前のスペースには沢山のプランター栽培でチューリップを始め、春の花々が咲き誇っている。職員は毎月、利用者の日常の様子を手紙(写真付き)で家族に知らせている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の人間関係等もふまえて座席を考えたり、お話が出来ない方には職員が関りをもったり等で対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、年賀状や手紙を下さるご家族もおられ、必要に応じて相談等の支援も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、ご家族様から今までの生活歴等を記入して頂き、情報の共有を行っている。また、普段の関りの中でもご本人やご家族の思いをくみとり支援出来るよう心掛けている。	日々の生活の中で聞き取った利用者の意向は、ケース記録に記載し必要時ケア会議にかけて検討している。食べ物への希望、入浴順位は1番がいい、花見に行きたいなどさまざまな要望がある。今年度は感染症の影響で花見は出来ないため、職員はリビングや居室前の壁に多数の桜の写真をはり、花見気分を味わえるよう工夫している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集シートを活用し、ご家族の協力を得ながら情報を収集し共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	何かあればケース記録に残し、職員間で情報を共有している。また、会議や情報交換ノートを活用し、入居者様の状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議前に、ご本人やご家族の意向を聞き、希望に沿ったケアプラン原案を作成している。会議には、必ずご本人とご家族に参加して頂き、再度意向を確認し、納得されたら署名と捺印頂き、交付している。	常勤職員は利用者3～4人を担当し、「ADL及びモニタリング表」でADL観察を毎月おこない3か月ごとにモニタリングしている。また、職員は介護課題のサービス実施欄に○をつけ、ケース記録に利用者の状態を記録している。介護支援専門員は支援経過記録を毎月残している。状態変化時や年1回はサービス担当者会議を開催しており、会議には利用者と家族の出席がある。相互の意見交換にもとづき介護計画を作成し実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を出来るだけ詳しく記入するよう指導し、職員間での情報交換ノートを活用し、細かく伝達している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族から希望があれば、訪問マッサージ等の利用も出来るよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での買い物や散歩を通じて、地域と関りが持てるよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医への受診はご家族に依頼し、継続して受診出来るよう取り組んでいる。かかりつけ医の往診は、月2～4回あり、緊急時は臨時往診も依頼出来、病院とは24時間連絡が取れるよう協力体制が築けている。	入居前のかかりつけ医に訪問診療を受けている方が1名あり、重度化しても往診などの対応はある。他の利用者は北山武田病院から月2回の訪問診療や往診を受けている。各医師とは、24時間連絡の取れる体制で緊急時の指示も受けている。歯科医、歯科衛生士による月1回の診療もある。また、薬剤師による、分包や服薬指導もある。他科の受診は家族の協力を得ている。看護師は週1回の勤務で、バイタル測定や食事介助、爪切りなども通して、健康管理をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は週1回勤務しており、入居者の身体状態等を把握している。また、何かあれば処置を依頼し、適切に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、ご家族と病院の間に入り、報連相等の連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の時に、看取りに関する聞き取りや事業所が出来る事を説明し、同意を得て同意書を交わしている。しかし歳月が過ぎると状況も変化する為、看取りが必要になった場合は、再度確認し、会議を行い、再度同意書を交わし、希望に沿った看取りが出来るよう取り組んでいる。	事業所内研修で「ターミナルケア研修」をおこない、職員はグループホームで可能な看取りケアについて学び、共有できている。契約時に「グループホーム上桂で入居に際しての意向確認書」に沿い説明をし、同意書を交わしている。重度化し看取りが必要となった時には、家族、主治医、管理者、介護士で再度話し合い、同意書も交わし、ターミナルケアをおこなっている。この1年間は、看取りはおこなっていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに基づき、事故発生時の対応については、定期的に確認を行っている。また、年1回普通救急講習への参加も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設している事業所と年2回消防署に協力頂き、消防訓練を行っている。備蓄に関しては、2階の倉庫に準備している。何かあった時に全職員が災害対応出来るよう体制を築いている。	年1回「防災研修」をおこない、職員は防災に関する知識を深めている。併設事業所と一緒に年2回、昼夜想定で、消防署立ち合いのもと、利用者も参加して消防訓練を実施している。救助袋での脱出、放水、消火器の使い方など実践している。救命救急、AEDの講習も毎年おこなっている。備蓄は約1週間分を準備している。地域には、訓練の日程は知らせているが、参加は呼びかけていない。自然災害を想定しての訓練は今後の課題である。	消防訓練には、まずは、運営推進会議の委員に参加を呼びかけ、諸課題（地域の方の協力やどのような支援を依頼するのかなど）を検討してはどうか。また、地域の防災訓練にも参加し、地域との連携につなげることを期待する。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重し、プライバシーが損なわれないような声掛けや関りを意識し、支援している。	4月の「法令遵守、倫理、権利擁護研修」で、接遇、プライバシー問題が組み込まれている。研修に不参加の職員には、個別伝達や資料配布をおこなっている。命令口調にならない言葉遣いや思いをくみ取る言葉かけを心掛けている。入浴時など、希望者には同性介助で対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の関りやコミュニケーションの中から、ご本人の希望に沿った生活をして頂けるよう心掛け支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の希望や思いを確認し、一人一人に合った暮らしをして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの習慣でお化粧をされている方は、入居後もおしゃれを楽しんで頂いている。また、月1回訪問散髪に来て頂き、ご本人やご家族の希望があれば、散髪やヘアカラー等を依頼している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を入居者様と考えたり、食事が楽しみになるような取り組みを行っている。普段からキッチンに立ち、出来る方は一緒に切ったり、炒めたり、盛り付けも行っている。	献立は利用者と一緒に考え立てている。食材は業者から届くが、買い物にも行っている。半数の利用者は包丁を持って調理ができる。職員と一緒にキッチンに立って料理を作り、味付けもおこなっている。利用者は、できることで役割がある。週3回は手作りおやつ作りをおこなっている。1番人気は誕生日の手作りケーキ、2番は白玉入りおぜんざい、3番はホットケーキである。また出前の握り寿司や焼き肉も好評で、ビールと一緒に味わう方もいる。外食は利用者の希望で出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や栄養状態を把握したい入居者様には、チェック表を作成し、水分量や栄養が確認出来るよう取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けし口腔ケアを行っている。また、月1回歯科往診にて、口腔内の確認や治療をして頂き、口腔内が清潔に保てるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄間隔をつかみ、出来るだけトイレ内で排泄して頂けるよう心掛けています。また、排泄物品に関しても、個々に応じた物を使用して頂いている。	自立の方は3人いる。トイレでの排泄を基本に、一人ひとりの排泄パターンに応じた支援をおこなっている。時間ごとに誘導する方や落ち着きなくソワソワ、キョロキョロなどのサインも見逃さないように、個別支援を心がけている。必要に応じて陰部洗浄をおこない清潔に留意している。夜間のみ、ポータブルトイレを使用している方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないう野菜を出来るだけ多めに摂取出来るよう考えたり、体操や身体を動かすようなレクリエーションも行っている。個人で、ヤクルトを購入されている方もおられる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2～3回は入浴して頂いている。出来るだけ曜日や時間帯を決めず、入浴出来るよう心掛けています。また、拒否があった場合でも、時間や日を変えて対応している。	入浴は週2～3回利用者の希望に合わせて支援している。1人ずつお湯の入れ替えをおこない、希望者には同性介助で実施している。菖蒲湯やゆず湯の季節湯は喜ばれる。入浴剤は利用者の要望により、温泉の素などを入れている。入浴拒否の方には、時間をおく、散歩後誘導する、慣れた職員が誘導するなど、声をかけるタイミングや誘い方、相性など考慮している。入浴後は、保湿剤を使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は設けず、個々のタイミングで就寝されている。また、寝具も出来るだけ自宅で使用されていた物を持参して頂き、良眠出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師に依頼し、服薬の管理を行って頂き、薬等の変更があればすぐに対応出来るよう体制を築いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事作業や趣味等、これまでの生活の中で馴染んで行ってこられた事は、継続して入居後も行って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望がある方に関しては、毎日散歩や外出を行っている。ただ、車を運転出来る職員が少なく、ドライブ外出は減っている。今後は、ご家族等にも協力を得ながら個々に合わせた外出支援を行っていかねばならない。	外出支援は今年度の目標であり、介護計画に組み込み実施している方もいる。近隣の散歩を毎日楽しむ方もあり、車椅子の方も週に1～2回は出かけている。近くのスーパーやドラッグストアなどに買い物にも適時行っている。家族とは通院や外食などに出かけ、外泊する方もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が出来る入居者様は、1万円程度の現金は管理されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、先方の都合を確認し、ダイヤル代行や取次ぎを行っている。また、携帯電話を持っている方もおられ、ご家族がかけてこられる事もある為、やり取りが出来るよう支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々が作成された物を飾ったり、出来るだけ季節感が感じられるような飾りつけを行っている。また、入居者様の相性等を考え、リビングの席も配慮している。	入り口には職員手作りの綺麗な花々が飾られている。リビングは明るく広い。対面式キッチン、利用者が職員とゆとりをもって調理ができる広さがある。テーブルには1人で座る方、2～3人で座る方など、利用者の相性に合わせて決めている。少し離れて、ソファはいくつも配置してある。利用者が好きな所でゆったり過ごせる場所となっている。今年は、桜見物を控え壁一面に桜の写真が貼ってある。掃除は利用者とともに毎日おこない、年2回床の清掃を業者に依頼している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者様同士に席を用意したり、関係性や相性を考えながら居場所作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、出来るだけ自宅で使用されていた家具等を持参して頂き、ご本人が安心して生活出来るよう環境を整えている。	居室は、自宅で使用していた家具(ベッド、タンス、テレビ他)や小物などを持参し、自宅にいた時と同環境になるよう配慮をおこなっている。加湿器の持ち込みは依頼している。室内は好みの物を飾っている方、ラックに衣類を掛けている方、収納して室内を広くしている方など、その人らしさを感じる。トイレが室内にあり利用者に喜ばれている。掃除は週1回であるが、適宜おこない清潔には留意している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ残存能力が活かせるような声掛けや関りを行っている。また、フロアやリビング内を安全に歩行出来るよう工夫をしている。		